2018.12.9　待降節第２主日

まっすぐたいらに

ルカによる福音　3:1-6

皇帝ティベリウスの治世の第十五年、ポンティオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの領主、その兄弟フィリポがイトラヤとトラコン地方の領主、リサニアがアビレネの領主、アンナスとカイアファとが大祭司であったとき、神の言葉が荒れ野でザカリアの子ヨハネに降った。そこで、ヨハネはヨルダン川沿いの地方一帯に行って、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。これは、預言者イザヤの書に書いてあるとおりである。

「荒れ野で叫ぶ者の声がする。

『主の道を整え、

その道筋をまっすぐにせよ。

谷はすべて埋められ、

山と丘はみな低くされる。

曲がった道はまっすぐに、

でこぼこの道は平らになり、

人は皆、神の救いを仰ぎ見る。』」

説教

待降節をすごしていると、なぜだか相撲や落語の前相撲、前座が頭に浮かんできます。相撲はテレビ中継の関係があり、だいたい６時に終わるように取り組みが調整され、その関係で前相撲はあさの９時ごろから始まっているそうです。寄席では真打がさいごに落語をしますが、その前に前座が落語をしています。でも真打を喰ってしまうような前座の噺家もいないこともないわけではありません。

さて、福音朗読では今週、来週と洗礼者（バプテスマ）のヨハネをとりあげ

ます。

> **呼びかける声がある。主のために、荒れ野に道を備え／わたしたちの神のために、荒れ地に広い道を通せ。谷はすべて身を起こし、山と丘は身を低くせよ。険しい道は平らに、狭い道は広い谷となれ。**イザヤ 40:3-4

いま聴いたルカ福音書の引用元です。イザヤ書の「主」はとうぜん神をさしていますが、ルカ福音書、いま聴いた福音でヨハネが語るイザヤ書引用個所の「主」はイエスなのか神なのかははっきりしません。バプテスマのヨハネの時代にはメシア信仰がユダヤ人のなかに芽生えていたと伝えられているので、やはりここではダイレクトに神を求めているのではなく、救世主＝イエスをさしているのでしょう。ところで、クリスチャンはクリスマスに関係なく主を求めています。特に熱心なクリスチャンは毎日求めていることでしょう。そう熱心ではないクリスチャンでも待降節、降誕節ごろになるとイエス・キリストにおもいをはせることだと思います。

> **曲がった道はまっすぐに、でこぼこの道は平らになり、人は皆、神の救いを仰ぎ見る。**ヨハネ 3:5b-6

このヨハネの呼びかけに答えて、わたしたちの道もまっすぐに、そしてでこぼこ道が平になることを信じましょう。

聖書がつたえるヨハネの出来事は比類なく偉大なイエス・キリストに対する重厚なプロローグになっています。イエスの降誕をとおしてイエスの再臨を待ち望むわたしたちがプロローグとしてのヨハネの気配を感じとることができますように。